

序 論

第1章 はじめに

第2章 岩美町の現状と課題



平成23年度 わがまちの宝写真コンテスト入賞作品「秋晴れの海岸」

1 計画策定の趣旨

今、我が国は人口減少や少子高齢化の進展、長引く景気の低迷による雇用情勢の悪化、地球規模での環境問題の深刻化、情報通信技術の高度化、地域主権改革の推進など、あらゆる分野で大きな変革期にあります。このような状況のなか、岩美町が発展し続けるためには、時代の潮流を的確に見据えながらさまざまな課題に適切に対応し、町民の生活の向上と地域の発展を実現していく必要があります。

町では、昭和46年に第1次総合計画を策定し、経済・社会情勢など時代の変化に対応しながら、8次にわたる総合計画により、魅力あるまちづくりを推進してきましたが、現行計画の基本計画期間が平成23年度をもって終了します。

第8次総合計画では「人が輝き 海^{ひか}輝る きらめきつづけるまち 岩美」を基本理念とし、美しい浦富海岸をはじめとする豊かな自然と共生し、町民一人ひとりが個性と人情味にあふれ、生き生きと輝いて暮らせる自立(律)したまちづくりを進めてきました。この計画期間中に、山陰海岸ジオパークの世界ジオパークネットワークへの加盟認定や地域高規格道路「鳥取豊岡宮津自動車道」駈馳山バイパスの開通に目途がつくなど本町が発展していくための大きな礎もできました。

これらに加え、本町にあるさまざまな資源も有効に活用しながら町民とともにまちづくりの課題を解決し、時代に即応した活力あるまちづくりを進め、本町が発展していくための指針として、第9次総合計画を策定しました。

2 計画の性格と役割

この計画は平成24年度から平成33年度までの10年間に及ぶ長期的な展望にたって、本町が目指すべき将来像やまちづくりの基本的方向及び方策を明らかにするものです。

- (1)町においては、町行政の総括的かつ基本的な指針となります。
- (2)町民においては地域づくりに対する役割、参画方法などを明らかにし、自主的・積極的な活動を進めるための指針となります。
- (3)国・県に対しては、本町が推進する施策の概要を明らかにするものです。

なお、国の施策・経済動向は刻一刻と変化しており、予測しがたい点も多く、計画実施に当たっては基本構想の範囲内で弾力的に運用するものとします。

3 計画の構成と期間

この計画は、平成24年度を初年度とし、向こう10年間の「基本構想」、5年間の「基本計画」、3年間の「実施計画」で構成しています。

(1)基本構想

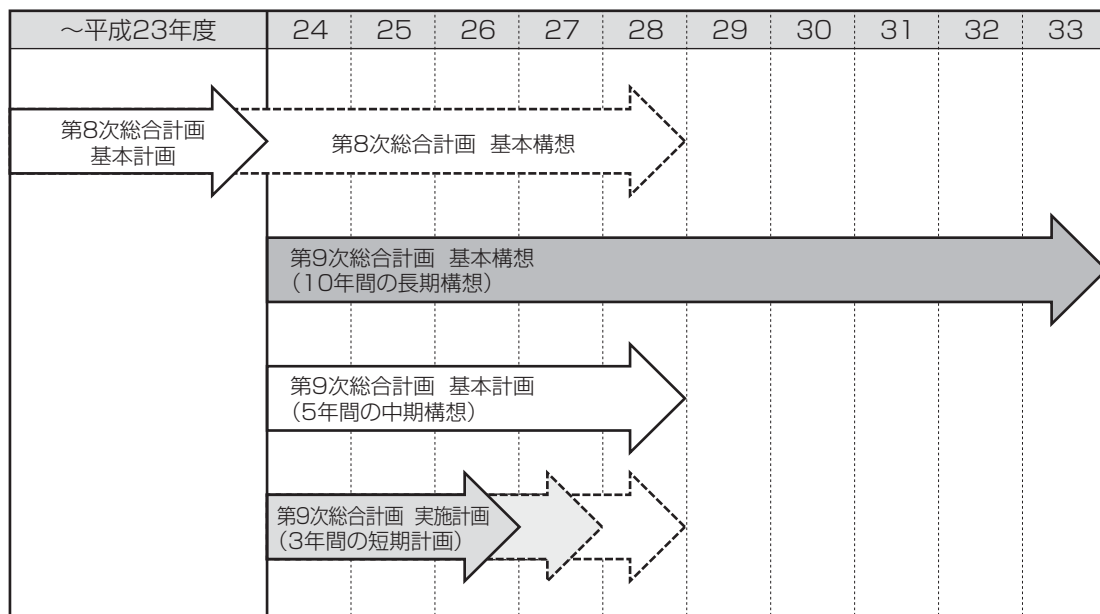
基本構想は、平成33年度を目標としたまちづくりの基本目標と岩美町の姿を示し、その実現のための行政及び町民の取り組むべき基本方針を明らかにするものです。

(2)基本計画

基本計画は、平成24年度から平成28年度までの5年間の中期計画とし、基本構想を具体化するための必要な施策について、事業内容を体系的に明らかにするものです。

(3)実施計画

実施計画は、基本計画に示された施策を現実の行財政のなかにおいて実施するための3年間の短期計画とし、ローリング方式により年次ごとに定め、個々の具体的な施策・事業について、その規模、経費等を明らかにするものです。



第2章

岩美町の現状と課題

1 岩美町の概要

(1) 位置

岩美町は、県東部に位置し、北は日本海に、南と西は鳥取市、東は兵庫県美方郡新温泉町に接しています。

町域面積は、122.38km²で、中国山地の扇ノ山・河合谷高原から続く山地と、これに源を発する蒲生川・小田川が形成する沖積平野からなり、海岸部はリアス式海岸で、複雑な岩石海岸と砂浜海岸で構成されています。日本海に面する東西約15kmの浦富海岸をはじめ、本町の全域が平成22年10月世界ジオパーク加盟が認定された山陰海岸ジオパークの一部となっています。



(2) 気候

気候は、日本海側気候の特徴を示し温暖ですが、冬は北西の季節風が強く降雨・降雪が多く、夏は高温多湿で晴天の日が続きます。

過去5年間(H18~H22)の平均気温は14.4℃で平均年間降水量は2,158mmです。

	H18	H19	H20	H21	H22	平均
平均気温 ℃	14.1	14.7	14.1	14.0	15.2	14.4
年間降水量 mm	2,022	1,860	2,304	2,308	2,294	2,294

(気象庁ホームページ (鳥取県岩井アメダス))

(3) 沿革

昭和29年7月、浦富町・岩井町・東村・田後村・網代村・大岩村・本庄村・小田村・蒲生村の2町7村が合併して岩美町が誕生しました。

平成の大合併では全国的に市町村合併が進むなか、平成15年10月単独自立を決定し、現在に至っています。

2 岩美町の現状

(1)人口・世帯

人口は、昭和30年の20,460人から平成17年13,270人、平成22年12,362人と減少し続けています。

世帯数は、昭和40年の3,718世帯から平成12年4,001世帯、平成17年4,045世帯と増加傾向にありましたが、平成22年は3,982世帯と減少に転じました。

人口・世帯数の推移

年	S30	S35	S40	S45	S50	S55
人口(人)	20,460	19,350	18,004	16,817	16,063	15,969
世帯数(世帯)	3,722	3,731	3,718	3,735	3,826	3,892

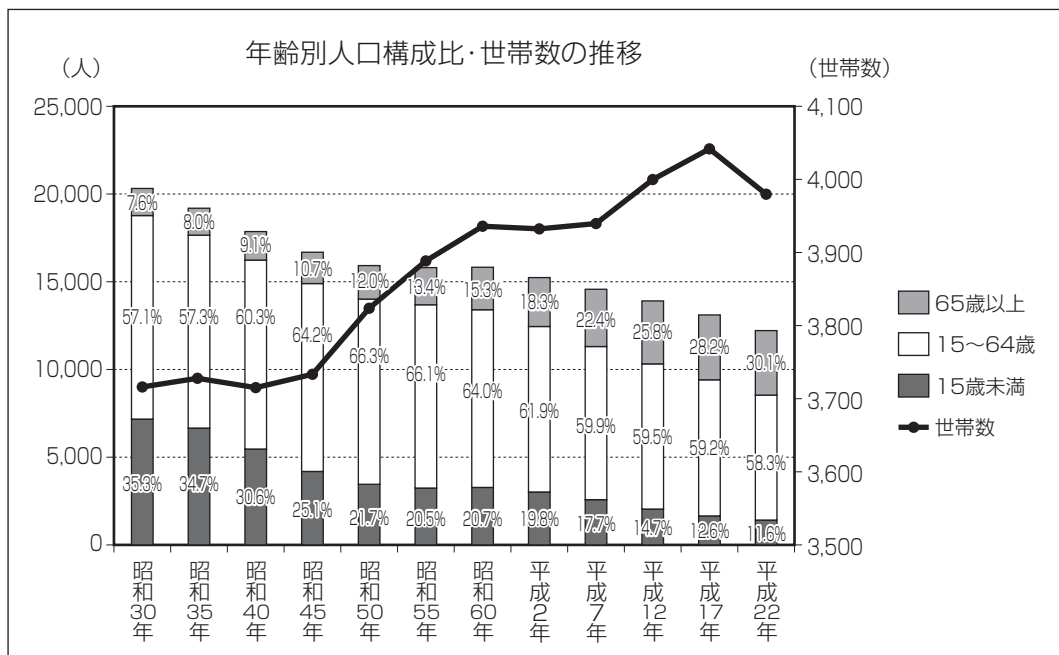
年	S60	H2	H7	H12	H17	H22
人口(人)	15,944	15,342	14,713	14,015	13,270	12,362
世帯数(世帯)	3,938	3,935	3,942	4,001	4,045	3,982

(国勢調査)

(2)年齢別人口構成

年少人口(15歳未満)割合は、昭和30年の35.3%(7,232人)から平成17年12.6%(1,674人)、平成22年11.6%(1,432人)と減少しています。

一方、高齢者人口(65歳以上)割合は、昭和30年の7.6%(1,555人)から平成17年28.2%(3,739人)、平成22年30.1%(3,721人)と増加傾向にあり、少子化と高齢化が進行しています。



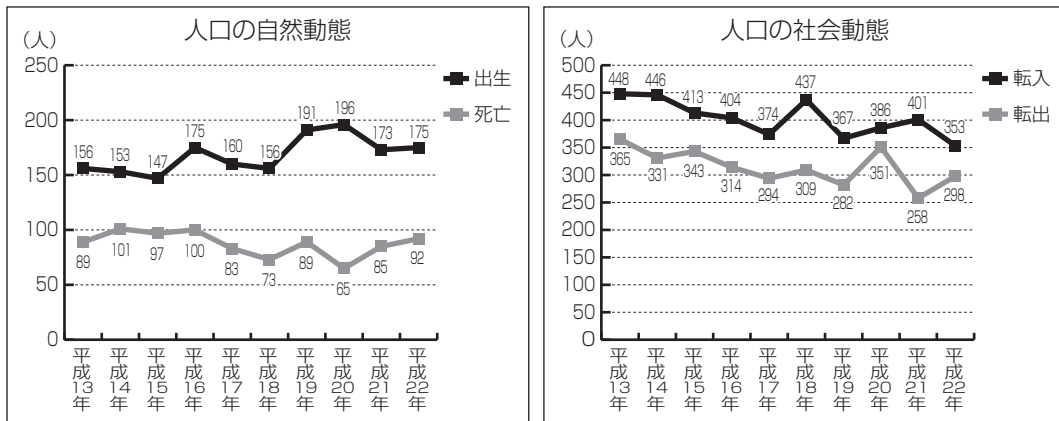
(国勢調査)

第2章 岩美町の現状と課題

(3)人口動態

年間の出生数は、概ね70～100人で推移していますが、ここ10年間では、わずかながら減少傾向がみられます。死亡数は、概ね150～200人で、ここ10年間では、わずかながら増加が見られ、自然動態としては、年間50～100人減少しています。

また、転入者・転出者ともに減少傾向にあります。依然として転出者が転入者を上回る状態が続いています。



(住民基本台帳)

(4)人口流動

通勤・通学先は46.2%が町外で、そのほとんどが鳥取市となっています。

通勤・通学先

		人数(人)	割合(%)
県内	町内	3,835	53.8
	鳥取市	3,047	42.7
	その他	82	1.2
県外	新温泉町	102	1.4
	その他	63	0.9
合計		7,129	100.0

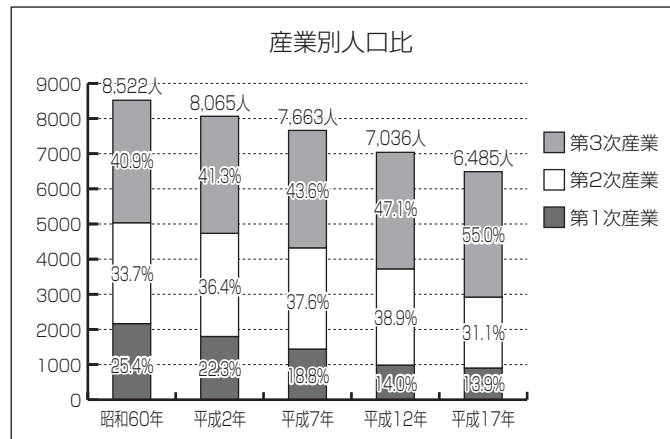
(H17国勢調査)

(5)産業構造

総人口の減少に併せて、就業者も減少傾向にあります。

また、第1次産業就業者の割合は昭和60年の25.4%(2,168人)から平成17年13.9%(903人)と減少しています。

一方、第3次産業就業者の割合は増加傾向にあります。

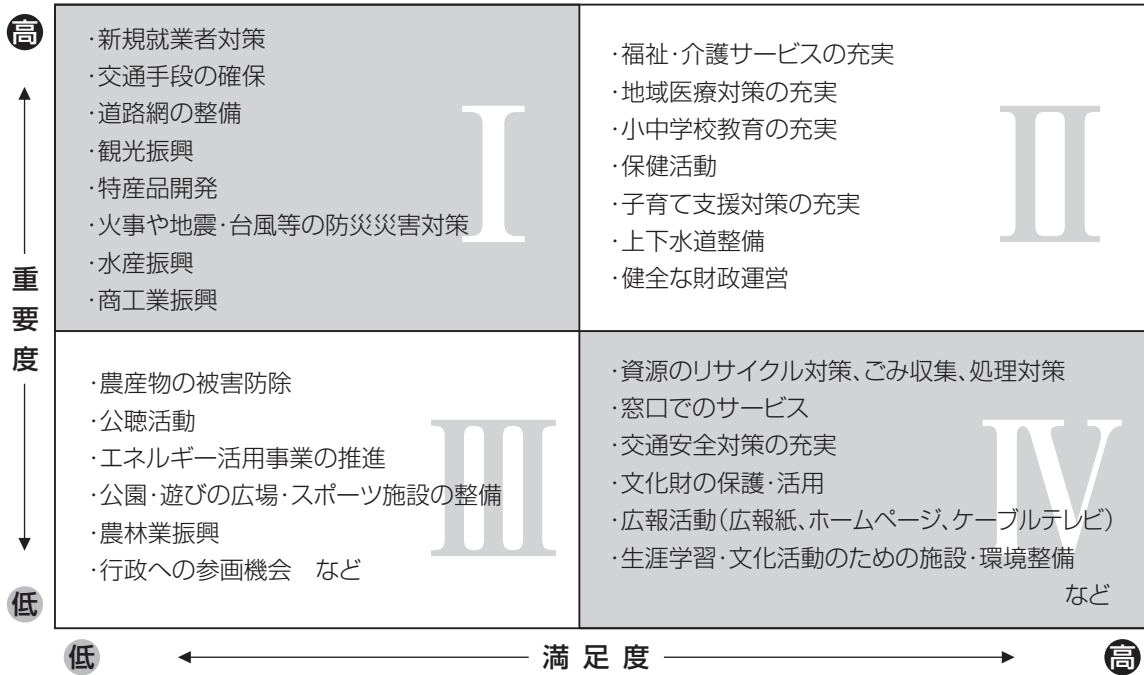


(国勢調査)

3 町民アンケートの結果

平成23年1月に町民1,000人を対象として、「日ごろ、町政について感じていること、思っていること」、「将来の岩美町への思い」などについてアンケートを行いました。回答率は36%でした。

(1)重要度と満足度について



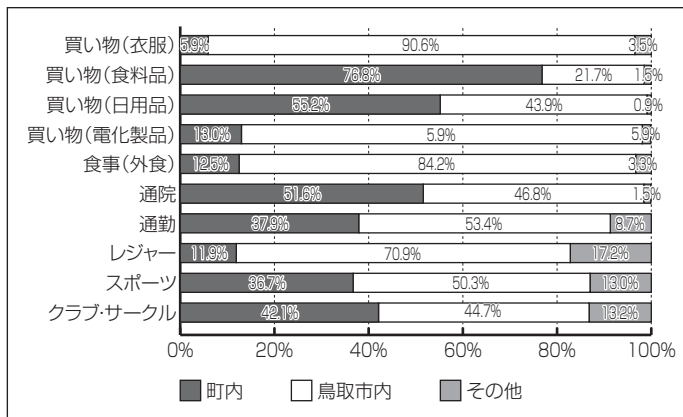
Iの領域に分類される雇用、交通、観光、防災などが、重要度が高いにもかかわらず満足度は低く、今後の優先度が最も高いと考えられます。

IIの領域に分類される福祉、医療、教育、子育て、水道などの生活に必要不可欠な分野は重要度と満足度が共に高く、満足度を継続的に確保する必要があります。

また、5年前に行ったアンケートと比較すると中学校教育や保健活動などの分野で満足度が高まっているのに対し、水産の振興や商工業の振興といった産業の分野では満足度の向上が見られませんでした。

(2)日常生活での行動範囲について

食料品、日用品の買い物や通院については、町内が多いものの、衣服、電化製品の買い物や外食については鳥取市内が70%以上を占めています。

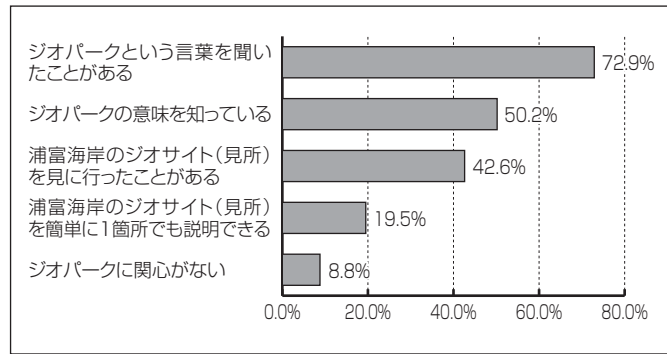


日常生活の行動範囲

(3)ジオパークについて

「ジオパークという言葉を知ったことがある」と回答した人が72.9%ですが、その意味を知っている人は約半数です。

また、「ジオパークに関心がない」と回答した人の多くは、高齢者と10～20代の若者でした。

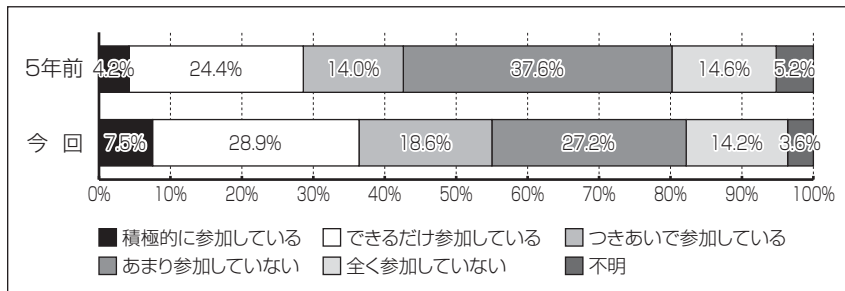


ジオパーク

(4)町の行事などへの参加について

「参加している」と回答した人が55.0%で、5年前のアンケートより12.4ポイント増加しています。また、20代・30代の参加率が高くなっています。

参加していない理由としては、「忙しくて時間がない」が49.7%で約半数を占め、「内容が面白くない」が15.4%でした。

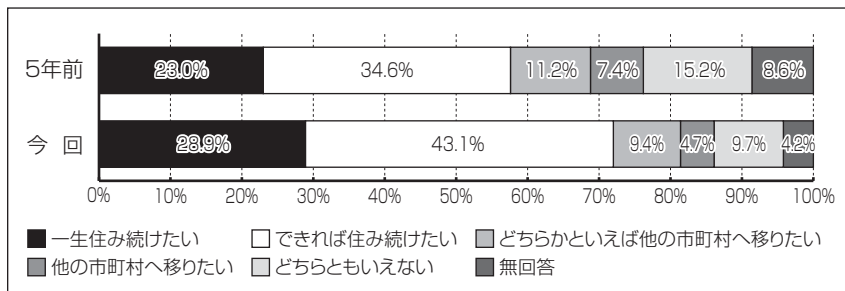


町の行事などへの参加

(5)今後の定住意向について

「住み続けたい」と回答した人が72.0%で、5年前のアンケートより14.4ポイント増加しています。

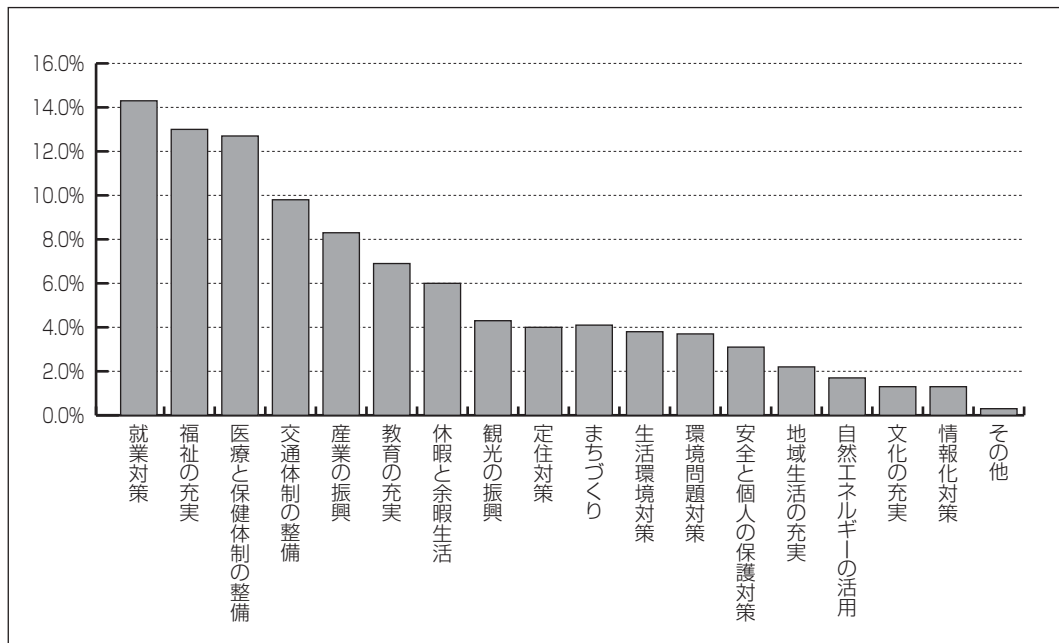
住みやすい理由は、「家・土地がある」「自然が豊かで環境がよい」などで、住みにくい理由は、「やりたい仕事・働く場がない」「通勤・通学・通院が不便」などです。



岩美町への定住意向

(6)まちの将来像について

みんなが住み続けたい、また町外の人が住みたいと思えるまちにするには、どの分野の整備が必要かという問いに対しては、「就業対策」(14.2%)、「福祉の充実」(12.9%)、「医療と保健体制の整備」(12.7%)、「交通体制の整備」(9.8%)、「産業の振興」(8.2%)などの回答がありました。



整備が必要な分野

まちづくり集会・まちづくり委員会からの意見・提言(抜粋)

- ◆小中一貫教育の可能性について検討を。
- ◆青年に対する取り組みの充実を。
- ◆30人学級の全学年への拡大を。
- ◆中央公民館、地区公民館の活動の充実を。
- ◆幼稚園の設置(幼児教育の充実)を。
- ◆予防を重視した保健事業を。
- ◆有害鳥獣対策の充実を。
- ◆積極的に企業誘致を。
- ◆地元の産業に就職できるよう職業教育を。
- ◆鳥取豊岡宮津自動車道の早期開通を。
- ◆ゴミの減量化へ向けて、施策の充実を。
- ◆自然エネルギーの積極的な活用を。
- ◆町の産物に付加価値を付けて販売してはどうか。
- ◆道の駅を整備し、特産品の販売と情報発信の拠点としてはどうか。
- ◆空き家と休耕田をセットにした利用ができないか。
- ◆どうすれば岩美町に人が呼べるか、イベントや受け入れのメニューに工夫を。
- ◆リピーターとなってもらえるようなおもてなしをまち全体で。
- ◆主要な道路に目立つ案内看板を。
- ◆国際化に対応した受け入れ態勢の整備を。
- ◆自治会が元気になる取り組みを。
- ◆人権の面からも住みたくなるようなまちづくりを。
- ◆各媒体のメリットを活かした情報発信を。
- ◆光ケーブル網の活用を。
- ◆結婚対策として出会いの場の設定を。
- ◆災害の種類に応じた避難について周知を。

4 主要課題と計画の体系

